

住民に不安のないまちづくりを

菩提寺地先の開発を受けて、一部の住民の方から水害に対する不安の声が挙がっています。上の図の開発予定地はもともと遊水地の役割を果たしてきたと指摘されています。その場所に宅地開発のために盛り土を行い、地面を固めてしまうと逃げ場を失った水が溢れてしまうと心配されています。

水路幅が下流ほど狭くなっている



水害の危険は以前からあった

水害の危険は開発に関係なく、以前からありました。住民の方にお話を伺うと「数年前の台風の際にも車のタイヤが半分くらい水に浸かった」との声がありました。

開発を行うことで水害の危険性が増すと指摘されていますが、一方で開発を行わなくても水害の危険性がなくなるわけではありません。住民の安全・安心な生活のためには、水害の危険性を取り除くことが必要です。

問題は水路にあるのではないか

以前よりこの地域では、大山川池の余水吐きの切り下げを行えば、水害の危険はなくなると考えられてきました。しかし、日本共産党湖南市議員団が甲賀土木事務所へ要望に行った際には、原因は水路にあるのではないかと指摘がありました。この指摘を裏付けるような調査結果が上の図です。近隣の住民の方が水路の調査をされました。水路の8か所で、水路の幅と深さを測定。測定結果から断面積を計算し書き込んだものが上の図です。

図の上流部ではおよそ2.1m²の断面積がありますが、下流部では1.5m²まで狭くなっています。最も狭いところでは1.1m²しかありません。

水路は下流に行くにしたがって広くなるものとされていますが、上の図からはそうならないことが明らかです。実際に、数年前の台風の際に水に浸かったとの声を伺ったのも、下流の地域にお住まいの方からです。

こうしたことから、大山川池の余水吐きの切り下げのみに拘らず、水路が適切であるかを調査し、必要であれば改修していかなければなりません。

開発が行われれば地域が賑やかになり、便利になると歓迎する声がある一方で、不安を抱えている方もいます。地域の発展、安心・安全なまちづくりが必要です。

暮らしを守る15項目の要求

共産党議員団は、市の来年度予算に対しての予算要望を生田邦夫市長に手渡し、市長と懇談を行いました。都市建設部が8項目、環境経済部は1項目、健康福祉部が3項目、総合政策部2項目の合計15項目の要望となりました。



都市建設部土木建設課では、菩提寺地先の排水路問題、落合川橋の改良工事と歩道橋の設置を要望。落合川橋については、今年度で目途をつけるとされました。国道1号線中郡橋北交差点改良と4車線化を国に強く要望することを訴えました。

保険年金課では、国保税の負担軽減、障害福祉課では、今年度予

算がカットされた障害児のためのホリデースクール事業について、発展し具体化することを求めました。

湖南民報

2022年10月28日(金)
No. 505号
日本共産党湖南市議員団



福祉教育
常任委員会
松井けい子
0748-77-2049



産業経済
常任委員会
川波 忠臣

090-9691-1027

050-3554-3822

湖南民報は「赤旗」に折りこんでいます。